



国際オープンアクセスウィーク

2023.10.23-29



Community over Commercialization

商業化を超えたコミュニティ

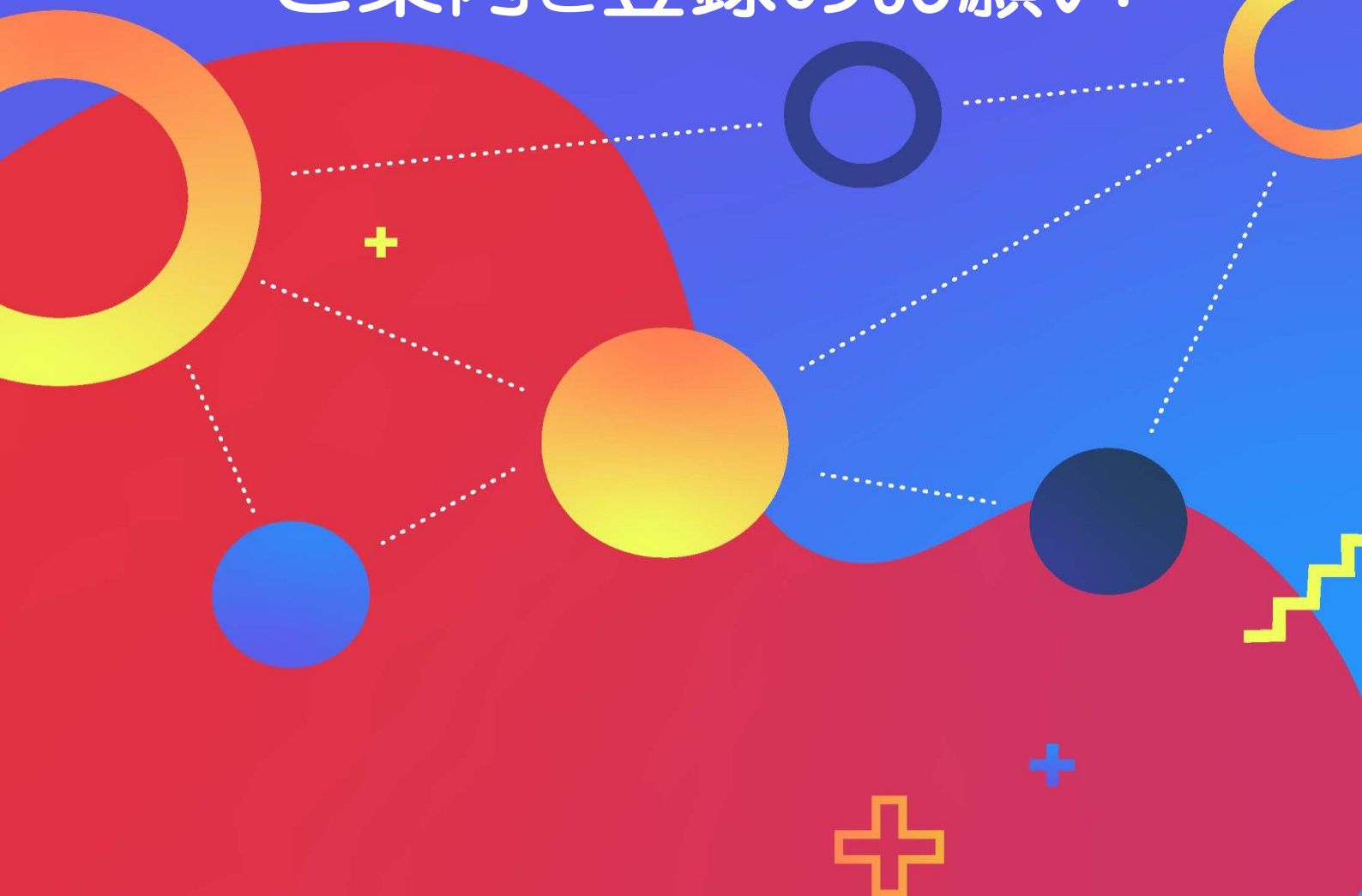


秋田大学

学術情報リポジトリAIR



ご案内と登録のお願い



目次

◆ 10/23-29 は国際オープンアクセスウィークです		2
・ その「研究成果」読みたくても読めない人がいます！		2
◆ AIR の活用法		3
・ AIR（エア）とは？		3
・ リポジトリ登録の4つのメリット		3
・ 登録できるコンテンツ		7
◆ AIR に登録する		9
・ まずはご連絡ください		9
・ 著作権について		12
・ 研究成果データと申請書をご提出ください		17



◆ 10/23-29 は国際オープンアクセスウィークです

オープンアクセスウィーク（OPEN ACCESS WEEK: OAW）は、アメリカの SPARC（Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition）が主催する「オープンアクセスについて広く知ってもらおう」という世界的なイベントです。

今年は、“Community over Commercialization”「商業化を超えたコミュニティ」をテーマとしています。

▶▶▶ その「研究成果」読みたくても読めない人がいます！

学術雑誌に掲載された論文は、当然ですが学術雑誌を購入している人しか読むことができません。学会・研究会での資料や、研究データ等、他の研究成果の場合も同様に、入手手段を持っていなければ読むことができません。

「雑誌を所蔵している他の図書館からコピーを取り寄せればよいのでは？」と考えられるところですが、電子ジャーナルを提供する出版社との契約条件や、図書館の運営方針によっては、できない場合があります。

つまり、読みたい論文などを見つけても、各大学・団体の条件によっては、読むことができません。また、その論文がインターネット上で探せる状態になっていなければ、そもそも見つけてもらうことも困難です。

そこで、研究成果をインターネット上に無償で全文公開し、「誰でも障壁なく研究成果を享受できるようにしよう」というのが**オープンアクセス**の考え方です。

附属図書館では、秋田大学学術情報リポジトリ AIR を使って、皆様の研究成果のオープンアクセス化をお手伝いしています！

◆ AIR の活用法

▶▶▶ AIR（エア）とは？

【 <https://air.repo.nii.ac.jp> 】

秋田大学学術情報リポジトリ（AIR : Akita university Institutional Repository system）は、秋田大学の構成員の研究成果（論文・研究データ等）をインターネット上で発信するショーウィンドウであり、保存する電子書庫でもあります。最新の研究成果を発信し、また、研究成果を蓄積・保存することで未来へも継承します。

AIR では、

- ▶ 研究者は**無償**で、研究成果を**登録・発信**できます。
- ▶ 閲覧者は**無償**で、研究成果に**アクセス・利用**できます。

つまり、AIR が、研究成果を発信したい研究者と、その研究成果を待っている・探している読者を繋げる役割を果たします。



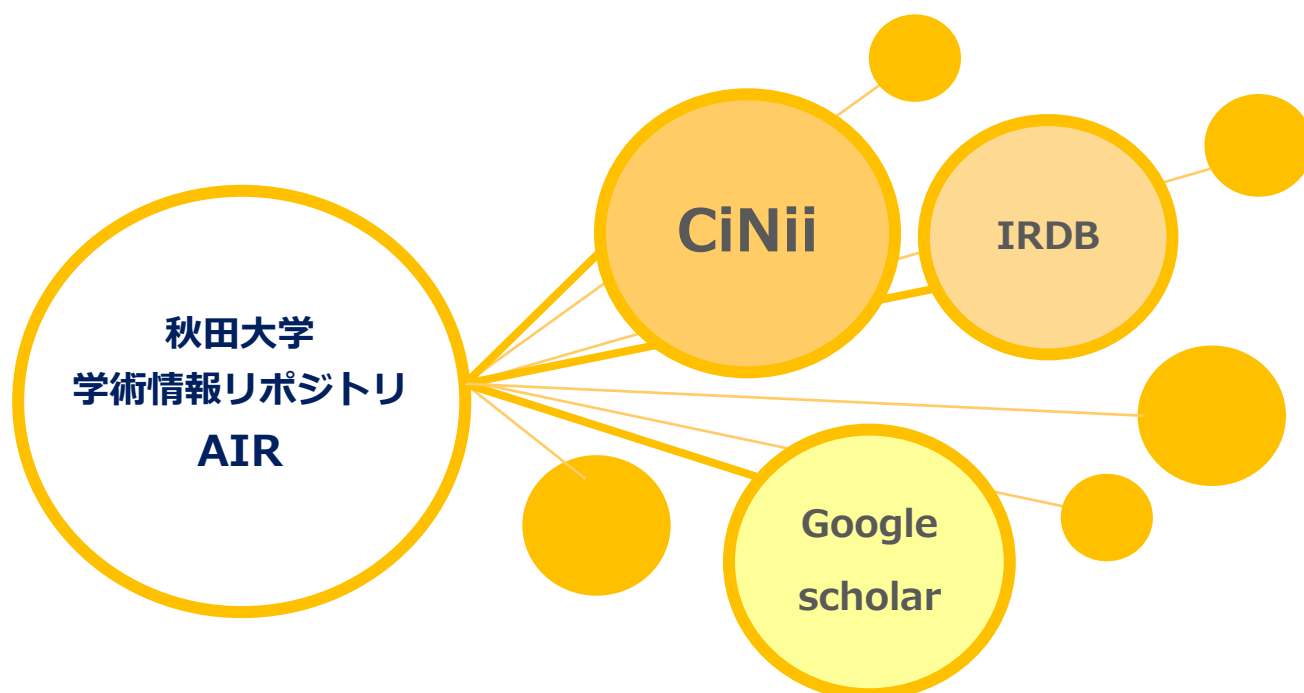
▶▶▶ リポジトリ登録の 4 つのメリット

AIR へ登録をすると……

- その 1 : 他検索データベースの検索結果にも反映されます
- その 2 : 被引用率が向上します
- その 3 : 研究成果の発表・保存・管理の場になります
- その 4 : 科研費実績報告書のオープンアクセス欄に ^{チェック} ☒ が可能に

その1 : 他検索データベースの検索結果にも反映されます

AIR は、他検索データベースと連携しています。そのため、リポジトリに登録をすると、自動的に CiNii Research、IRDB、Google scholar 等、日本国内だけでなく海外のデータベースの検索結果にも反映されます。もちろん各検索結果ページから、研究成果掲載ページへ直接アクセスすることが可能です。



複数のデータベースから検索が可能のため、研究成果そのものへのアクセスの可能性が広がります。

また、Yahoo! や Google 等、一般の方がよく利用する検索エンジンの検索対象にもなっています。AIR の特徴は、誰もが無償でアクセス可能なことです。大型検索エンジンを経由して、研究成果を見つけた方も、すぐに研究成果そのものを閲覧する機会を得ることができます。

こうした新たな研究成果発信ルートの獲得は、産学連携のきっかけも生み出します。

その2： 被引用率が向上します

研究成果へのアクセスの窓口が広がり、誰もが無償で閲覧・利用できるため、研究成果の閲覧数が上昇します。これにより、被引用率向上への足掛かりにもなります。

その3： 研究成果の発表・保存・管理の場になります



AIR は、研究成果発表の場となります。

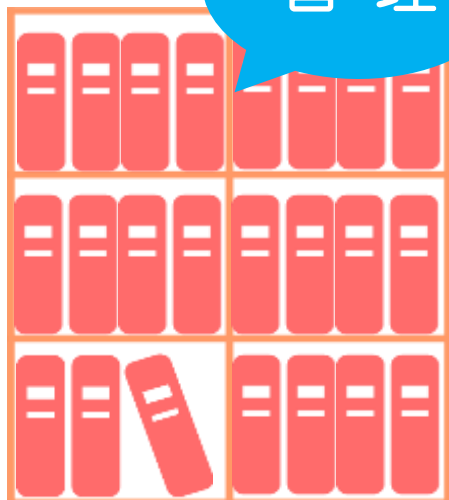
また、「秋田大学」にて設置・公開されているため、秋田大学との産学連携を望む方々にとっても、あらたなきっかけを生む閲覧の場となる可能性を秘めています。

AIR は、電子書庫の役割を果たします。登録された研究成果ファイルはAIRのサーバ上に保存されるため、このリポジトリを保存方法の一つとして利用することができます。

また、登録したファイルはいつでもダウンロードが可能です。



管 理



ご自身のホームページ上で、研究成果やそのリストを公開している場合は、リポジトリ上の本文ファイルにリンクさせるだけで、閲覧者は研究成果そのものへすぐアクセスすることができます。また、ご自身のホームページサーバ上にファイルを置く必要がないため、サーバの負担軽減にも繋がります。

その4： 科研費実績報告書のオープンアクセス欄に^{チェック} ☒ が可能に

平成 26（2014）年度より、科研費実績報告書および実施状況報告書に研究成果論文のオープンアクセス化に関する項目が、新設されました。

科研費におけるオープンアクセスの制度概要¹では、オープンアクセス化の方法や手段が説明されています。この中の「機関リポジトリ」は、秋田大学では「秋田大学学術情報リポジトリ AIR」です。そのため、登録すると、科研費で示されているオープンアクセス項目も同時に満たすことになります。

¹ 日本学術振興会「オープンアクセス | 科学研究費助成事業」
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html（2023 年 10 月 20 日参照）

▶▶▶ 登録できるコンテンツ

AIR に登録できるコンテンツは以下の通りです。

- ・ **学術雑誌論文 (Journal Article)**

……学術雑誌に掲載された論文

- ・ **学位論文 (Thesis or Dissertation)**

……博士論文、修士論文等（要旨のみのもの含む）

- ・ **紀要論文 (Departmental Bulletin Paper)**

……紀要類に掲載された論文

- ・ **会議資料 (Conference Paper)**

……会議の報告書等に掲載されたもの

- ・ **発表資料 (Presentation)**

……会議で発表されたプレゼンテーション資料、ポスター、
口頭発表資料等

- ・ **図書 (Book)**

……図書。図書中の章、節も含む

- ・ **技術報告 (Technical Report)**

……テクニカルレポート、ディスカッションペーパー、ワーキング
ペーパーなどの機関発行の報告書

- ・ **研究報告書 (Research Paper)**

……科研費や COE 等、研究助成金による研究成果の報告書

・ **論文 (Article)**

……学術雑誌以外の記事

・ **教材 (Learning Material)**

……授業などで用いる資料類

その他、上記以外にもご登録希望のものがございましたら、ぜひご相談ください！

◆ AIR に登録する

▶▶▶ 1. まずはご連絡ください

登録希望の研究成果がございましたら、**書誌情報（論文名・掲載誌・発表年等）**を、下記へメールでお知らせください。

図書館・情報推進課 学術情報資源担当

☎ 2281（手形キャンパス）

✉ libzas@jimu.akita-u.ac.jp

※論文の場合は、大学情報 DB のリポジトリ連携機能により登録することができます。既に大学情報 DB に登録済みの論文も[変更]からリポジトリ連携可能です。

メインメニュー > 登録・参照する > 研究活動 > 論文 >
[新規追加] または [変更]

連携登録する論文の登録情報の入力（編集）画面を開きます。

The screenshot shows a web form for document registration. On the left, a tab labeled '機関リポジトリ' (Institutional Repository) is selected. The main form area has a section titled '登録可否' (Registration Eligibility) with two radio buttons: '登録する' (Register) and '登録しない' (Do not register). The '登録する' option is selected. Below this, a message states: '・秋田大学機関リポジトリの登録には著作権確認が必要です。詳しくはこちらをご覧ください。' (Registration with the Akita University Institutional Repository requires copyright confirmation. Please see here for details). The '本文ファイル' (Main File) section contains a button 'ファイルを選択' (Select File) which is circled in red. To the right of this button, it says '選択されていません' (Not selected). Below the button, there is a checkbox for 'ファイル削除' (Delete File) and a message: '・本文ファイルを選択してください。登録可能なファイルは1つ、ファイルサイズは10MBまでです。' (Please select the main file. Only one file can be registered, and the file size must be 10MB or less). A red arrow points from a box on the left containing the text '「登録する」を選択' (Select 'Register') to the '登録する' radio button. Another red arrow points from a box on the right containing the text '著者最終稿を添付。複数ファイルがある場合は ZIP 形式等で一つにまとめる。' (Attach the author's final draft. If there are multiple files, combine them into one in ZIP format, etc.) to the 'ファイルを選択' button. At the bottom right, a yellow box contains the text: '←リポジトリへの登録完了後、リポジトリURLが登録されます。' (←After registration with the repository is complete, the repository URL will be registered).

Excel 一括登録によるリポジトリ連携も可能です。

一括登録用 Excel ファイル

機関リポジトリ		
登録可否	リポジトリURL	リポジトリ登録
repo_kbn	repo_url	repo_set_dat
1:登録する		20200901
1:登録する		
2:登録しない		

一括登録用 Excel ファイルでは、本文ファイルの登録が行えません。本文ファイルを登録する場合は、Web 画面の [メインメニュー](#) > [登録・参照する](#) > [研究活動](#) > [論文](#) から行ってください。

外部 DB からのインポート画面でもリポジトリ連携が可能です。

[メインメニュー](#) > [外部データを取り込む](#)

外部DB
取得日

central Nile Basin with sea s
Scopus
[Article]
2020-08-21

重複・類似データ

▲ 学内DBに重複データあり
論文

学内のカテゴリ
不足項目の設定

▼ 編集終了 論文

記述言語: 日本語

掲載種別: 未設定

査読: 未設定

招待論文: 未設定

共著区分: 未設定

筆頭著者・コレスポンディングオーサー・ラスト (シニア) オーサー区分: 未設定

researchmap 論文振分け区分: 論文へ連携

教員評価の調査票「教員研究評価 (研究業績)」へ出力区分: 出力しない

学術リポジトリ登録可否: 登録する

本文ファイル: ファイルを選択 選択されていません

追加

著者最終稿を添付して追加ボタンを押下。
複数ファイルがある場合は ZIP 形式等で
一つにまとめる。

「登録する」を選択

↓ 追加ボタン押下後の画面

出力しない

学術リポジトリ登録可否: 登録する

本文ファイル: ファイルを選択 選択されていません

追加

aaa.txt 削除

▶▶▶ 2. 公開可能なファイルの条件をお伝えします

いただいた書誌情報を元に、担当にて著作権等の調査を行います。
その後、公開可能なファイルについてお伝えします。

例： 共著者がいる場合

……共著者への許諾をお願いしております。

出版者・学会においてリポジトリでの公開条件がある場合

……公開可能な論文のバージョン（査読前/査読後/出版社版）等。

公開可能な論文のバージョンにてのご登録の検討をお願いしております。

※リポジトリ担当における調査項目、および公開不可のファイル詳細については、
14 頁以降をご参照ください。

▶▶▶ 3. 下記資料を附属図書館へご送付ください

☒ 公開可能な研究成果ファイル【PDF 等】（2 でお伝えしたもの）

☒ 秋田大学学術情報リポジトリ AIR 登録申請書（以下「登録申請書」）

の 2 点です。

※大学情報 DB のリポジトリ連携機能からの登録の場合は登録申請書は不要です。

登録申請書は、秋田大学学術情報リポジトリ AIR からダウンロードできます。

* 【秋田大学学術情報リポジトリ AIR】

[【 https://air.repo.nii.ac.jp 】](https://air.repo.nii.ac.jp)

> 右メニュー【各種案内】

> 【登録申請書】（WORD/PDF）

▶▶▶ 著作権について

◆ 登録希望者【著者本人】のみが著作権を所有する場合

リポジトリ登録後も、著作権は図書館へ移譲されません。

著作権は著作権者が保持します。

◆ 登録希望者以外の著作権保持者【共著者】がいる場合

登録希望者【著者本人】および共著者の許諾が必要です。

リポジトリでの公開について、共著者全員の許諾を得てください。

◆ 著作中に他者の著作物である図版・写真等が含まれる場合

図版・写真等の著作権者の許諾が必要です。

該当する全ての図版・写真等について、それぞれの著作権者の許諾を得てください。

◆ 出版社・学会に著作権が移譲されている場合

出版された研究成果の場合、ほとんどが著作権は出版社・学会へ移譲されています。そのため、各団体へ許諾をとる必要があります。

オープンアクセスを許可している場合も、出版社・学会によって規定が異なります。リポジトリ担当にて規定の調査後、公開可能なファイルについてご連絡いたします。

リポジトリ担当にておこなう出版社・学会の オープンアクセスに関する著作権ポリシーの調査項目

▶ **そもそも公開は可能か？ 可能な場合、いつから可能か？**

エンバーゴ (embargo : 公開禁止期間) の有無。

▶ **公開可能なファイルの規定はあるか？**

著者版 (査読前) / 著者最終稿 (査読後) / 出版社版 (校正有)

▶ そもそも公開は可能か？ 可能な場合いつから可能か？

電子ジャーナルを含む雑誌掲載論文の場合、リポジトリでの公開を認める動きが広がっています。しかし、公開を許可しているものの中にも、エンバーゴ（公開禁止期間）が定められている場合があります。エンバーゴは、出版後2カ月/半年/1年経過していれば可能等、各雑誌・団体によって様々です。**研究成果の公開が可能なのは、エンバーゴ満了後**となります。

AIR では、**公開時期を指定することも可能**です。エンバーゴに関わらず、公開時期にご希望のある際は、その旨、ご相談ください。

以下は、公開規定が記載されている場所です。各雑誌・出版社・学会等により使用単語・文言が異なります。参考としてご覧ください。

確認場所

エンバーゴや公開可能なバージョンは、以下の場所に明記されていることが多くあります。

* **著作権譲渡契約書** (Copyright Transfer Agreement/Copyright Form)

……論文投稿にあたり交わした契約書あるいはその内に項目として明記されています。

* **各団体ホームページ内**

……下記項目に記載されている傾向があります。基本的には、著者/投稿者向けページに記載されています。

- ・ **著者/投稿者のページ**【authors】
- ・ **投稿規定**【submission】
- ・ **セルフアーカイブ**【self-archiving】
- ・ **オープンアクセス**【open access】
- ・ **著作権**【copyright】
- ・ **ポリシー**【policy】

確認項目

前記の確認場所のうち、以下の項目箇所は、リポジトリ上での公開範囲の規定（いつから公開が可能か/どのバージョンの原稿・ファイルなら公開が可能か等）が明記されていることが多くあります。

- * リポジトリ / repository / institution repository /institutional use
- * 著作者の権利 / permitted uses by contributor
- * 個人利用 / personal use / personal servers (authors and / or employers) / author online use
- * オープンアクセス / open access
- * セルフアーカイブ / self-archiving
- * scholarly sharing / retention of rights for scholarly purposes
- * article sharing

著作権ポリシー検索

雑誌・出版社名で、著作権ポリシーを検索・確認することができます。著作権ポリシーの状況は変更される可能性があり、最新情報とは異なる場合があります。そのため、必ず各雑誌・出版社・学会の規定もご確認ください。

- * **SCPJ** 学協会著作権ポリシーデータベース【国内】

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/133>

- * **SHERPA/RoMEO** 【海外】

<https://v2.sherpa.ac.uk/romeo/>

▶ 公開可能なファイルの規定はあるか？

リポジトリでの公開が許可されている場合、雑誌・出版社・学会によって、公開可能な論文のバージョンが異なります（出版社版のみ可能、すべてのバージョンが可能等）。

どのバージョンのものなら公開が可能か、エンバーゴと同様に記載されています。ご確認の上、担当まで登録可能なファイルの送付をお願いいたします。

規定がある場合、**規定のバージョン以外の論文ファイルは公開をおこなうことができません。**

出版社で定義されている論文ファイルのバージョンは、大きく3つあります。



① **著者版（査読前原稿） / submitted version / preprint / author's original version**

※ 雑誌に投稿した最初の原稿。査読やリビジョンを経る前のもの。



② **著者版（査読後原稿） / 著者最終稿 / accepted version / accepted manuscript / post print / peer-reviewed version**

※ 査読・リビジョンを経て、アクセプトされた（出版が決定した）最終確定稿。出版社による校正・レイアウト調整は経ていない。

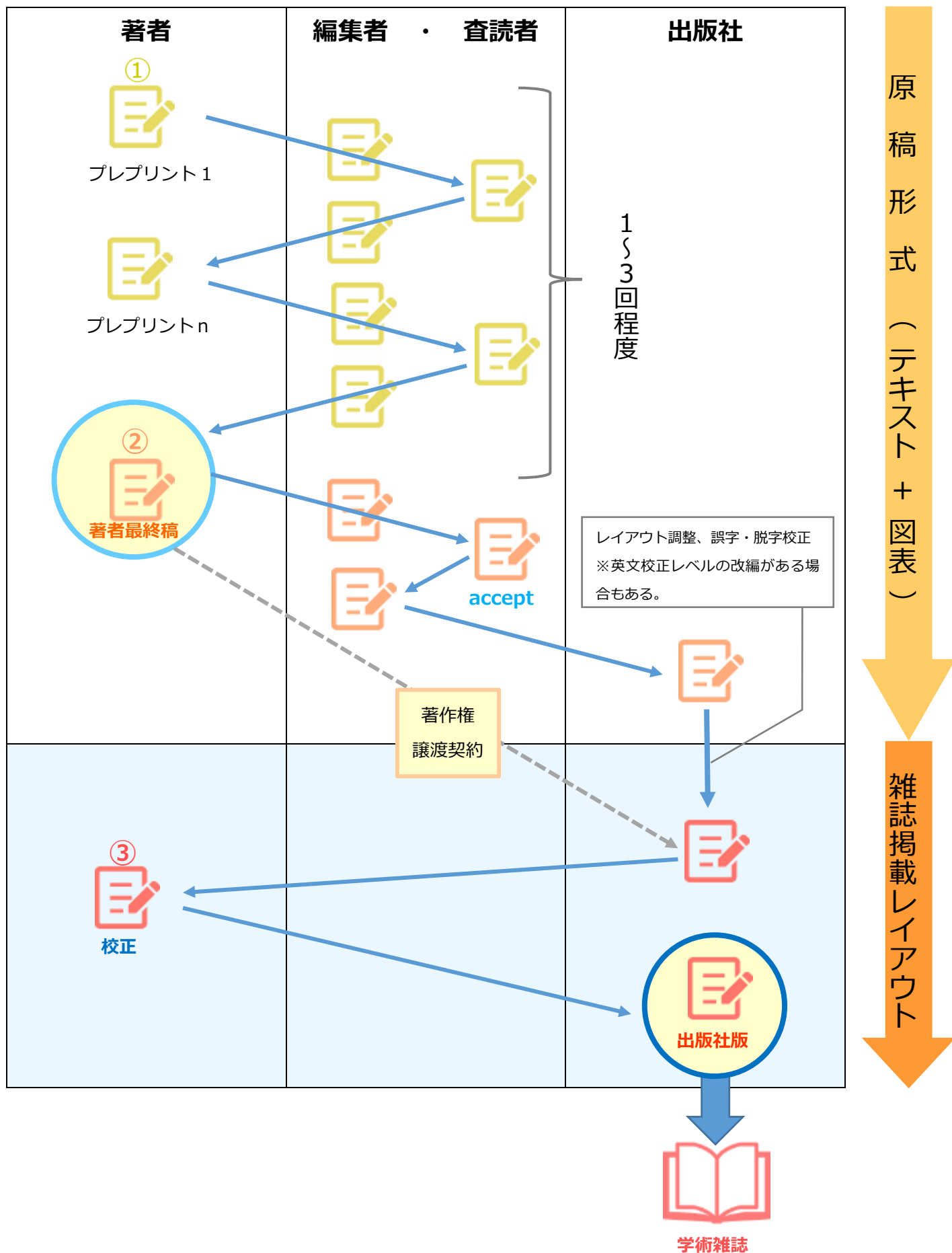


③ **出版社版 / final published version / final journal version / published journal article / version of record**

※ 校正・レイアウト調整を経たもの。雑誌に掲載される（された）状態のもの。

①著者版(査読前原稿)、②著者版(査読後原稿)/著者最終稿、③出版社版の各バージョンについては、次頁「論文執筆から学術雑誌掲載まで」をご覧ください。

参考) 論文執筆から学術雑誌掲載まで²



² 「機関リポジトリと著作権」 北海道大学附属図書館作成より抜粋・改編

▶▶▶ 研究成果データと申請書をご提出ください

- ☑ 登録希望の研究成果
 - ☑ 登録申請書（大学情報 DB のリポジトリ連携機能からの登録の場合は不要）
- 以上、2点を以下宛先までご送付ください。

研究成果は、大学情報 DB のリポジトリ連携機能へのアップロード、メールによるファイル添付、または CD-ROM 等により、ご送付ください。その他、リポジトリに関するお問い合わせも、こちらまでお願いいたします。

図書館・情報推進課 学術情報資源担当

☎ 内線 2281（手形キャンパス）

✉ libzas@jimu.akita-u.ac.jp

担当部署で、公開をして問題はないか、再度確認をおこなった後、AIR へ登録・公開いたします。

リポジトリでの公開後は、インターネット環境下であれば、世界中どこからでも、誰もが無償でアクセスできる状態となります。公開後、ご自身の研究成果の紹介時等にも、ぜひご活用ください。

**皆様の秋田大学学術情報リポジトリ AIR へのご登録、
またリポジトリに関するご相談をお待ちしております！**

秋田大学学術情報リポジトリ AIR

【 <https://air.repo.nii.ac.jp> 】

図書館・情報推進課 学術情報資源担当

☎ 内線：2281（手形キャンパス）

✉ libzas@jimu.akita-u.ac.jp